

アイヌ文化の祈りの大切さや装飾の意味、自然への畏れや尊敬、和人の交易と転用の見事さ、アイヌ刀を観察すると様々なことが見えてきました！



イラスト 小柳 誠



イラスト 引地 優萌

わたしは、エムシを見て、アイヌ民族はとても平和を大切にしていると思いました。理由は刀は、きるための物なのに、やくばらに使用しているからです。アイヌ民族のように、平和を大切にすることがふえるといいと思います。

イラスト (前原 みのり)

刀はなんのために使ったの？

刀「エムシ」と宝「イコロ」

アイヌの人々は、刀を闘いでなく、儀礼に用いた。それが「エムシ」だ。刀身を取り払い、鞘・柄などに装飾を施した「タンネアイコロ(長い宝)」、「タクネアイコロ(短い宝)」がある。魔除けのために刀身は錆びている。

イラスト (原田 詢矢)

刀身が錆びているわけ

アイヌ刀の刀身は、全体が錆びているのがほとんどで、その理由は、諸説ありますが、刀が光っていると、魔物がその光を見て、体をかわしてしまうなど、錆びた刀で切られた魔物は復活できないからだと言われています。そのため、アイヌ刀はあえて研がずに錆びさせていたと考えられています。

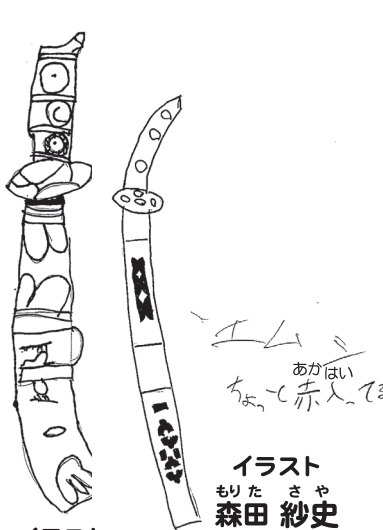


イラスト 森田 紗史

副葬品としての役割も

今、使われている刀は何かを切ったり、戦う時に使う物だが、アイヌ刀は違う。悪ばらいや亡くなったあとに副葬品として用いられる。おはかにもいっしょにうめられた。このアイヌの刀は、おどりに使われていて、歌といっしょにふる。

イラスト (田野 紗彩)

アイヌ刀の刀身は、全体が錆びているのがほとんどで、その理由は、諸説ありますが、刀が光っていると、魔物がその光を見て、体をかわしてしまうなど、錆びた刀で切られた魔物は復活できないからだと言われています。そのため、アイヌ刀はあえて研がずに錆びさせていたと考えられています。

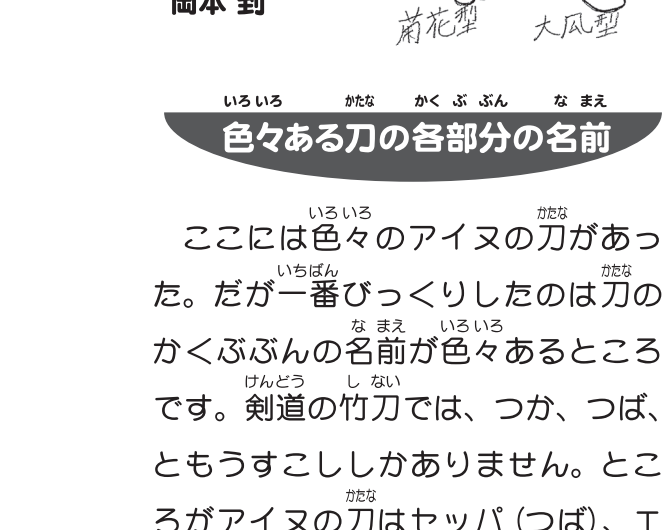


イラスト 森田 紗史

セツパはシトキにもなる

ぼくは、刀のことをかんさつしました。タンネアイコロは、長い刀です。エムシは、たたかうときのちがってかみさまにのりをする刀です。エムシには、セツパというつばがあってそれがかちかちなってそれがかみさまにするのりです。セツパをひもといたらシトキになります。シトキは、くびかざりです。

イラスト (岡本 到)



イラスト 岡本 到

色々ある刀の各部分の名前

ここには色々のアイヌの刀があった。だが一番びっくりしたのは刀のかくぶぶんの名前が色々あるところ。剣道の竹刀では、つか、つば、ともうすこしかありません。ところがアイヌの刀はセツパ(つば)、エムシ(刀)、エムシニピヒ(刀のつか)、ケプシペ(鞘) それいじょうあります。しかもつばには3つの型がありました。菊花型、木瓜型、丸、八角型です。

イラスト (植竹 湧)

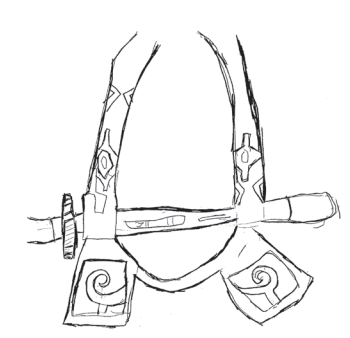


イラスト 引地 優萌

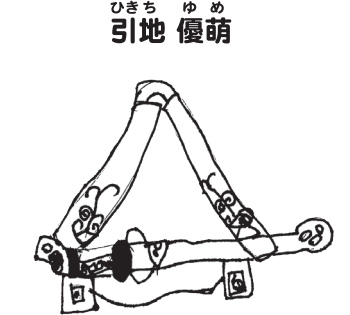


イラスト 田野 心絆

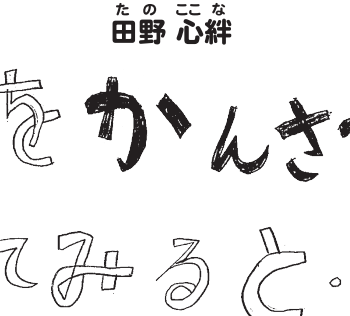


イラスト 岡本 到

菊花型 木瓜型 丸型 八角型

イラスト 植竹 湧

セツパはとりはずしできる

エムシ(刀)がアイヌの人々だとやぐばらにつかわれているのだとびっくりしました。エムシにはがらがついていて色がついているのもありました。エムシにはセツパというのがついています。セツパはもつぶぶんについているまるいものです。とりはずしできるとしり、おどろきました。

イラスト (前原 夏帆)

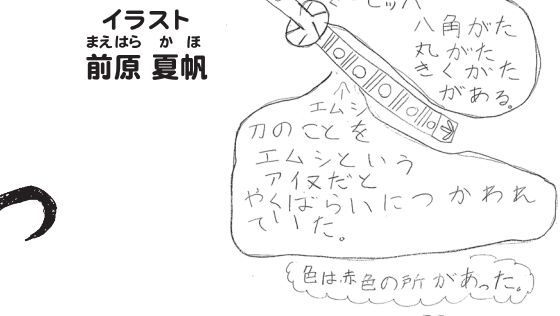


イラスト 前原 夏帆

色は赤色の所があった。



イラスト (丸型) 三浦 百葉

イラスト (菊花型) 阿部 多香子



イラスト 阿部 多香子

絵にも色々な分野があるが、今回は動物を取り上げる。狐、馬、鳥等。特に馬は、引き締まった体、力強く競う姿、これには私もホれているが、絵も良い。作者の画風でも左右されるが、どれも特徴を捉えている美しいものばかり。尚更、この絵も捨てがたいものだ。

イラスト (原田 詢矢)